

パネル 2013年度せんだいメディアテークでの企画

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): Tohoku Gakuin University 作成者: 東北学院大学文化財レスキュー班 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/362

牡鹿半島のくらし展 in 鮎川 開催

パネル作成：阿部千賀子
伊藤瑞穂
櫻井かほり

◎ 概要

2013年8月13～15日、かつて資料が收藏されていた旧牡鹿公民館の跡地で「牡鹿半島のくらし展 in 鮎川―再生・被災文化財―」を開催しました。東北学院大学で預かっている資料の一部を展示し、地元の方をはじめとして、実家に帰る途中だという方、ボランティアや観光で来ていた方、新聞やテレビの報道で知ったという方など、多くの人に見ていただきました。

民俗学実習を履修する3年生と、2012年の活動を経験した4年生が中心となり、来場した方に対し、資料を前にして聞き書き調査をおこないました。

◎ 予備調査

この鮎川展を開催するに先立ち、私たちは6月頃から牡鹿半島の昔のくらし、震災後の変化について事前調査をおこないました。この調査は生活班、農業養蚕班、漁業班、そして捕鯨班の4つに分かれ、各種文献や新聞記事などからデータを収集するというものです。この成果を全員で共有することで、展覧会当日に聞き書き調査をする上での事前知識として役立ちました。



会場となったテント

◎ 展覧会の開催準備

データ収集を終えると、展示する資料の選別と梱包の作業に入ります。資料は昔のくらしを思い出せるようなものを選びました。資料の出陳リストを作成し、以降はこのリストをチェックしながら作業を進めます。展示する資料が確定すると、資料が運搬中に壊れないよう梱包していきます。慣れない作業に四苦八苦しました。

展示会前日には、資料をトラックへ積み込み鮎川へと向かいました。昨年展覧会をおこなった旧牡鹿公民館が取り壊されていたため、まず会場にするテントの設営をおこなった後、展示台を並べて資料を配置をしました。



資料の陳列



聞き書き調査の様子

◎ 本番の様子

来場者の方々に、資料を前にしながら聞き書き調査をおこないました。道具の具体的な使い方や、それにまつわる思い出話を伺うことができました。

例えば、若い頃捕鯨船の船長をされていた方からは、海外の港を周ったという話を伺ったほか、捕鯨鉋には先端に爆薬が仕込まれていたことを教わりました。慣れないことばかりで大変でしたが、経験者である4年生の手助けもあり、最終日には円滑にコミュニケーションをとることができました。